

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 18 日現在

機関番号：22604

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24656350

研究課題名(和文)非制度依存型地域ケア施設の継続的実践分析に基づく地域生活支援システム・環境の構築

研究課題名(英文)Long-term analysis of support system and environment of non-institutional community care facilities

研究代表者

竹宮 健司(Takemiya, Kenji)

首都大学東京・都市環境科学研究科・教授

研究者番号：70295476

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文):本研究の目的は、医療・福祉分野において現行制度では対応できない支援を提供している施設(非制度依存型地域ケア施設)が利用者ニーズに対応した柔軟な支援をどのような環境で提供してきたについて明らかにすることである。

がん医療については、患者・家族への情報・相談・交流支援ならびに緩和ケアを先駆的に実践している施設を対象とした実態調査を行い、支援環境の計画要件を整理した。高齢者支援については、小規模で多機能な支援を提供する宅老所を対象として、支援体制・環境とその利用構造を明らかにした。重症障害児者への支援を実践する施設での実態調査を基に、医療依存度の高い重症児者への支援体制・環境に関する知見を整理した。

研究成果の概要(英文):This study aimed to clarify characteristics of support system and environment for the elderly, handicapped person and cancer patients in non-institutional community care facilities. The following aspects were examined. Actual condition and field survey were conducted to clarify support systems in place to provide information, consultation, communication support, and palliative care, as well as the space planning for the provision of such support, in the facilities for cancer patient and their families. Analyzing the records and observation survey in old folks homes which called 'Takurousyo' were conducted, and we clarify the utilization form and the support system and space planning. Actual condition and field survey were conducted to clarify support systems for people with severe disabilities and medical needs, and we clarify characteristics of the support system and utilization of the facilities.

研究分野：建築計画

キーワード：非制度依存型ケア施設 地域ケア施設 宅老所 緩和ケア有床診療所 がんサロン 重症心身障がい児者レスパイト施設 患者・家族滞在施設

1. 研究開始当初の背景

近年の建築計画研究の多くは、制度に規定される施設の効果的整備を目的とした研究が中心である。制度に依存しない独自の活動を行う施設の先進性に着目した事例報告は散見されるが、そうした施設の運営システムや環境構成に着目し、活動を長期間に亘り継続的に捉えた研究はない。本研究では、がん医療、高齢者福祉、障害者福祉の分野において現行の施設サービスでは対応することのできない人々への支援を提供している施設に着目し、それらを非制度依存型地域ケア施設と定義した。申請者はこれまで、同施設の活動実態を把握する調査を行い、現行の制度にとらわれず、被支援者とその家族のニーズに対応している実態を明らかにしてきた。それぞれの施設が、在宅での支援を基軸に据えた支援サービスと共に、在宅生活を補完する施設環境を独自に創出していた。そして、その環境にはある種の共通性があることを見出し、それらを横断的に比較する実証研究を構想するに至った。

2. 研究の目的

急速な少子高齢化の進展に伴い、現行の医療・福祉制度では十分な対応ができていない人々を、制度に頼らず独自の活動で支援する取り組みが見られるようになった。特に、高齢者福祉、がん医療、障害者福祉の分野での活動が顕著に見られ、利用者からの支持を得ている。こうした取り組みの共通点は、住み慣れた地域での在宅生活を基軸に据えたケア・支援の一環として、在宅生活を補完する施設を独自に創出している点にある。

本研究では、これらの施設を非制度依存型地域ケア施設と捉え、同施設の実践状況を長期間に亘り継続的に把握し、在宅での生活を基盤とするこれからの地域生活支援システムとそのケア施設の環境のあり方を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、非制度依存型地域ケア施設と定義した「宅老所（託老所）」、「緩和ケア有床診療所」、「がんサロン」、「重症心身障がい児者施設」、「患者家族滞在施設」を対象として、施設運営・施設利用実態に関する調査を実施した。

(1) 宅老所（託老所）：都市部に開設された宅老所 KS を対象として、1) 施設開設時から 2011 年までの全利用者（164 名）のサービス利用記録に関する転記調査を実施した。2) 開設時（1998 年）から 2011 年までのスタッフ体制の記録を転記した。3) 2011 年に施設内実測調査、利用者属性調査、参与観察調査を実施し、2004 年に実施した同調査結果と比較した。地方都市に開設された託老所 A を対象として、1) 開設時（1997 年）から 2013 年までの全利用者（281 名）のサービス利用記録に関する転記調査を実施した。2)

2012 年から 2013 年にかけて 4 回（春・夏・秋・冬）の施設内観察調査を実施した。

(2) 緩和ケア有床診療所：全国 232 施設の有床診療所を対象とした郵送アンケート調査を 2013 年に実施した。1992 年から 2009 年に開設された 9 施設を対象とした訪問ヒアリング・資料収集調査を実施した。

(3) がんサロン（がん相談支援）：全国のがんサロンの運営状況を把握するために、1) 資料収集調査、2) がんサロンへの電話ヒアリング調査を 2012 年に実施した。また、島根県のがんサロンを対象として、1) 資料収集調査、2) サロン代表者・利用者へのヒアリング調査・室内実測調査・参与観察調査を 2011 年に実施した。

(4) 重症心身障がい児者施設：1) 在宅重症児の家族を対象としたアンケート調査を 2012 年に実施した。2) 重症障がい児者のレスパイトケアを実施している 12 施設、重症心身障害児施設 4 施設への訪問ヒアリング・資料収集調査を行った（2011 年～2013 年）。医療施設の重度重複障害児病棟と多機能型施設（2 施設）への訪問ヒアリング・資料収集調査ならびに利用実態調査を実施した（2014 年）。人工呼吸器装着児を受け入れている施設において、施設利用実態調査を実施した（2012～2014 年）。

(5) 患者家族滞在施設：小児専門病院に近接して設置される患者・家族滞在施設の中で、きょうだい児保育を実施する 3 施設を対象とした訪問ヒアリング・資料収集調査を実施した（2014 年）。神奈川県内の 1 施設を対象とした利用実態調査を実施した。

4. 研究成果

(1) 宅老所（託老所）：東京都内の宅老所 KS を対象として、同施設の開設時からの 13 年間の運営・利用の変遷を実証的に明らかにした。また、同施設で 7 年前に実施済みの施設内利用実態調査と同様調査を行い、両者の比較分析を行った。また、愛媛県の託老所 A を対象として同施設の開設時からの 16 年間の運営・利用の変遷を実証的に明らかにした。また、同施設において季節毎の施設内空間利用実態調査を行い、古民家の空間構成の有有用性について検討を行った。

(2) 緩和ケア有床診療所：全国アンケート調査を実施し、その傾向を分析した。また、全国 9 施設の有床診療所を対象に訪問ヒアリング調査を実施し、詳細な施設運営・計画に関する検討を行った。千葉県の有床診療所 H において、参与観察調査を実施し、定性的なデータをもとに分析を行った。

(3) がんサロン（がん相談支援）：全国のがんサロンの施設分布、施設概要に関する資料収集調査を実施した。また、全国 6 施設のがん診療連携拠点病院を対象に訪問ヒアリング調査を実施し、各施設の相談支援環境の構成や相談支援体制に関する詳細な検討を行った。島根県のがんサロンの利用実態を明

らかにした。さらに、病院外に設置された相談支援施設の利用特性を明らかにした。

(4) 重症心身障がい児者施設：重症心身障害児施設におけるデイケアの実態および重症児者の受入状況に関する実態調査、先進的レスパイトケア施設の訪問ヒアリング調査、在宅療養中の人工呼吸器装着児の保護者を対象としたアンケート調査を実施し、同施設の施設計画要件について分析した。重症障がい児者レスパイトケア施設については、重症心身障害児者通所施設(4施設)ならびに先進的レスパイトケア施設(12施設)の訪問ヒアリング調査を実施した。また、人工呼吸器装着児の受入を行っているレスパイトケア施設において施設空間利用実態調査を実施し、同施設の施設計画要件について検討した。医療施設の重度重複障害児病棟、多機能型(居宅介護、日中維持支援、短期入所、等)施設(2施設)への訪問ヒアリング調査を実施した。また、同施設において施設空間利用実態調査を実施し、同施設の施設計画要件について検討した。

(5) 患者家族滞在施設：小児専門病院に近接して設置される患者・家族滞在施設の中で、きょうだい児保育を実施する施設の運営状況や施設環境を把握するため、3施設を対象とした訪問ヒアリング調査を実施し、その傾向を分析した。また、きょうだい児保育の利用件数の最も多い神奈川県L施設を対象とした利用実態を明らかにし、同施設の計画要件に関する検討を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

1) 田龍一・竹宮健司

がんサロンの全国的運営状況および島根県における運営・活動実態に関する事例研究、日本建築学会技術報告集、第21巻第47号、pp.259-264、2015年2月(査読有り)

2) 田龍一・竹宮健司

がん診療連携拠点病院における情報・相談・交流支援体制とその空間的対応に関する考察、日本建築学会計画系論文集、Vol.79、No.706、pp.2641-2651、2014年12月(査読有り)

3) 金聖龍、竹宮健司、高尾昌和

宅老所の施設運営・利用実態に関する研究：KSにおける経年分析、日本建築学会技術報告集、第20巻第45号、pp.653-658、2014年6月(査読有り)

[学会発表](計10件)

1) 竹宮健司・市倉健太

「有床診療所緩和ケア診療加算」認可施設の運営・施設計画状況：緩和ケアを提供する有

床診療所の施設運営・計画に関する研究 その3、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.125-126、2014年9月12日、兵庫県、神戸大学

2) 市倉健太・竹宮健司

有床診療所における緩和ケアの実践状況に関する考察：緩和ケアを提供する有床診療所の施設運営・計画に関する研究 その4、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.127-128、2014年9月12日、兵庫県、神戸大学

3) 藤島梨佳・竹宮健司

重症障がい児者通所施設の運営・計画に関する研究、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.129-130、2014年9月12日、兵庫県、神戸大学

4) 田龍一・竹宮健司

がん診療連携拠点病院における相談・情報・交流支援体制と環境構成：がん医療の発展に対応した医療施設計画に関する研究 その8、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.73-74、2014年9月12日、兵庫県、神戸大学

5) 西坂直子・竹宮健司

病院外に設置された相談支援施設の利用特性：超高齢化団地内K施設を対象として、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.75-76、2014年9月12日、兵庫県、神戸大学

6) 竹宮健司・上赤坂典幸

重症障がい児者の在宅ケア状況とレスパイトケア施設の現状分析：重症心身障がい児者レスパイトケア施設の建築計画に関する研究 その4、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.563-564、2013年8月30日、北海道、北海道大学

7) 上赤坂典幸・竹宮健司

重症心身障がい児者施設における通所・短期入所サービスの現状分析：重症心身障がい児者レスパイトケア施設の建築計画に関する研究 その3、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.561-562、2013年8月30日、北海道、北海道大学

8) 田龍一・竹宮健司

47都道府県のがんサロン開設状況 がん医療の発展に対応した医療施設計画に関する研究 その7、日本建築学会大会学術講演会、梗概集E-1分冊、p.151-152、2013年8月30日、北海道、北海道大学

9) 北原英明・竹宮健司

託老所Aにおける続き間の利用特性 古民家の空間構成を活用した小規模高齢者施設

に関する研究 その2,日本建築学会大会学術講演会,梗概集 E-1 分冊, p.537-538, 2013年9月1日,北海道,北海道大学

10) 金聖龍・竹宮健司

宅老所 KS における 13 年間の利用者記録分析,日本建築学会大会学術講演会,梗概集 E-1 分冊, p.539-540, 2013年9月1日,北海道,北海道大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

竹宮 健司 (TAKEMIYA, Kenji)

首都大学東京 都市環境科学研究科・教授

研究者番号: 70295476

(2)研究協力者

田 龍一 (JEON, Yongill)